石川県立美術館だより

平成17年8月1日発行　第262号

華麗なる17世紀ヨーロッパ絵画

7月22日(金)～8月21日(日)会期中無休
午前9時30分～午後5時(入館は午後4時30分まで)
土曜日は午後8時まで

襞襟を着けた女性の肖像　レンブラント・ファン・レイン

雲海　堀友三郎

夏休み 親子で楽しむ美術館 ～きになるかたち～

7月22日(金)～8月21日(日)会期中無休
午前9時30分～午後5時(入館は午後4時30分まで)
土曜日は午後8時まで

目　次

華麗なる17世紀ヨーロッパ絵画 ……2
婚礼調度の美 ……3
古九谷・再興九谷名品展(後期)……3
親子で楽しむ美術館～きになるかたち～……4
今月のコレクション展示室　主な展示作品…5
講演会記録(石川県立美術館コレクション こぼれ話) …6
企画展TOPIC(サントリー美術館名品展) …7
企画展示室、8月の行事案内……7
所蔵品紹介、次回の展覧会……8
第35回文化財現地見学のお知らせ ……8

URL　http://www.ishibi.pref.ishikawa.jp/

企画展示室（第７～９展示室）

華麗なる17世紀ヨーロッパ絵画

7月22日（金）～8月21日（日）会期中無休

主催／北陸中日新聞、石川県立美術館、石川テレビ放送

メディチ家の子ども　ティツィアーノ・ヴェチェッリオ

日本では江戸時代の初めにあたる十七世紀は、ヨーロッパでは〝バロック時代〟とされています。「バロック」という言葉は、ポルトガル語の「いびつな真珠」を意味する「バローコ」に由来し、「大げさな、不規則な、誇張された」といった揶揄的な意味から一般的に軽蔑する形容詞として使われていました。

しかし、ルネサンス、マニエリスムに続いて、一六〇〇年代イタリア・ローマで始まり、ヨーロッパ及びスペイン支配下のラテンアメリカ諸国に広がったこのバロック様式は、ダイナミックな構図、劇的なドラマ性を感じさせる明暗法や色彩などが特徴とされるもので、この時期活発となった反宗教改革運動と密接に結びつき、スペイン、フランス、フランドルなどでは、王侯貴族やカトリック教会がパトロンとなって、宗教画や神話画が盛んに制作されます。一方これに対して、プロテスタント、新教の国オランダでは、市民階級の台頭によって新しい宗教的・経済的・社会的・政治的・芸術的考え方によって、肖像画、風景画、静物画、海洋画、室内風景といった新しい分野が発達するなど、地域や宗教によって描かれる題材が異なる多様な展開を示し、そしてなによりも、感覚に訴えようとする〝絵画的〟な美術であったため、今日我々が親しんでいるレンブラントやベラスケスといった巨匠を輩出したといえます。

本展覧会は、ポーランドのヨハネ・パウロ二世美術館が所蔵するバロック絵画五十点を紹介する展覧会です。この美術館は、科学者カルロ＝ポルチェンスキー博士とその夫人が収集・寄贈した約四百五十点の作品から成り立ち、宗教絵画から静物画、印象派までと幅広い所蔵品から成り立つ、ポーランド国内の個人コレクションとしては有数のものです。それらの中から、今回、主としてバロックの時代といわれている十七世紀の絵画に焦点を当て、イタリア、スペイン、フランドル、オランダ、フランスといった国々で、それぞれ特徴ある絵画様式を発展させた画家たちの、自然と人間、歴史と神話を媒介として、豊かな想像力と卓越した技法で描き出された絵画表現をご鑑賞していただきたく開催するものです。

主な出品作家

イタリア絵画
ティツィアーノ、ティントレット、ベェロネーゼ他

フランドル絵画
ヤコブ・ヨルダーンス、アンソニー・ヴァン・ダイク他

オランダ絵画
ヤン・ファン・スコレル、レンブラント・ファン・レイン他

スペイン絵画、フランス絵画、その他
ホセ・デ・リベラ、ディエーゴ・ベラスケス、バルトロメ・エステバン・ムリーリョ他

◆講演会（入場無料）
日時　7月31日(日)午後1時30分
場所　美術館ホール
演題　「バロック絵画の見方」
講師　宮下規久朗（神戸大学助教授）

◆ロビーコンサート（無料）
日時　7月31日(日)午前10時・11時30分
場所　美術館一階ロビー
演題　「バロック絵画の夢」
演奏　アンサンブル金沢メンバー

◆子供無料鑑賞デー
日時　8月1日(月)、8日(月)
対象　小学生・中学生

◆観覧料

個人	一般	1,100円
	高・大生	700円
	小・中生	500円
団体（20名以上）	一般	900円
	高・大生	500円
	小・中生	300円

※当館友の会会員は受付での会員証提示により、団体料金になります。

自画像　ピーテル・パウル・ルーベンスの工房

エジプトへの逃避途上の休息　アンソニー・ヴァン・ダイク

マグダラのマリア　ヤン・ファン・スコレル

今月のコレクション展示室
（前田育徳会展示室）

特　集

婚礼調度の美

7月22日（金）～8月21日（日）

婚礼調度とは、婚礼にあたって女性の家から嫁ぎ先へ持参された「嫁入り道具」のことです。それら化粧道具・文房具・遊戯具などは、蒔絵で家紋が散らされた豪華な装飾で、意匠も統一されていました。前田家では、徳川家からの輿入れが多く、将軍家からの輿入れに際しては、新しい御殿（御守殿）を新築して、姫君を迎えています。本特集で紹介するのは、十三代藩主斉泰に嫁いだ十一代将軍家斉の二十一女・偕子（溶姫）の婚礼調度ですが、溶姫を迎える際に建てられた御守殿門は、現在、東京大学にある「赤門」としてよく知られています。

厨子棚
拾弐手箱・香盆・硯箱など、化粧道具・香道具・文房具を置きます。厨子棚は、平安時代の公家の調度に始まり、室町時代に黒棚とともにこの形式となったと考えられています。家具というものがほとんど発達しなかったわが国においては、数少ない伝統的調度といえます。

拾弐手箱
手箱は、平安時代に貴族の手回り道具を入れた箱に始まり、鎌倉時代以降は、化粧道具のみを納めるようになります。この手箱には、大円形の鏡箱（二合）など十二合の箱が納められます。

短冊箱
短冊を納めるための長方形の箱です。いつでも短冊に詩文が書けるように、懸子には硯・水滴・筆が納められています。

眉作箱
化粧道具を入れる手箱です。中は二段になっており、丸鏡・白粉箱・化粧水入・こね墨入・眉箒（大小）・歯黒筆・紅筆などが納められています。

櫛箱・払箱
櫛箱は、櫛のみを納める箱として独立したものです。払箱は、櫛と櫛の汚れを払う櫛払が納められています。

歯黒箱
お歯黒の道具を入れる箱です。歯黒の原料である五倍子粉を入れる附子箱、銀製の歯黒次ぎ、五倍子粉を溶かす容器である潼子などが納められています。

今月のコレクション展示室
（第２展示室）

特　集

古九谷・再興九谷名品展（後期）

7月22日（金）～8月21日（日）

後期の「古九谷・再興九谷名品展」は、前期の展示作品のうち、二十四点を入れ替えてご覧いただきます。前期の会期中、第5展示室では特別陳列「北出不二雄の世界」を開催しました。その会場に、北出氏自らが作陶に影響を受けたとされる古九谷を展示しましたが、今回の展示ではそれらを第2展示室に戻すため、内容を大幅に変えた十四点の古九谷と三十四点の再興九谷を展示します。

再興九谷のうち、金沢で開かれた窯に**春日山窯**と**民山窯**があります。春日山窯は京都から青木木米を招き、文化四年（一八〇七）に開窯したもので、藩金の流失を憂えた藩が自ら経営しました。民山窯は加賀藩士武田秀平が開いたもので、赤の細描を特徴としており、秀平の陶号から民山窯と呼ばれました。

小松では、ほぼ同じ時期に**若杉窯**が興っています。古九谷青手様式や染付の鉢・皿をはじめ、量産方式による日用雑器など、あらゆる器種が作られました。

大聖寺では、古九谷再興を目的に**吉田屋窯**が開かれました。古九谷青手の塗埋手を踏襲しており、一見青く見えることから、「青九谷」の呼称もあり、広く知られています。

吉田屋窯を引き継いだのが**宮本屋窯**です。赤絵細描の画風は八郎手とも呼ばれ、当時流行した南画の影響もあり、題材は中国風な唐人物が中心となりました。

粟生屋源右衛門は、現在の小松に生まれた陶工で、若杉窯の本多貞吉に陶技を学び、**小野窯・松山窯**などの主工として名をなしました。精緻な技術を発揮した作品で知られます。

九谷庄三は、幕末から明治にかけて活躍しました。洋絵の具による中間色の絵付に金襴手を加味した多彩で華麗な描画の「彩色金襴」の技法を確立し、海外へも輸出されました。九谷焼の名を内外に広め、現在の産業九谷の基を開いたことで知られます。

色絵万年青図平鉢　吉田屋窯

今月のコレクション展示室
（第６展示室）

夏休み 親子で楽しむ美術館
～きになるかたち～

7月22日（金）～8月21日（日）

今年も夏休みの特集企画として、コレクション展示室で「夏休み　親子で楽しむ美術館」がはじまります。今年のテーマは、かたちをたのしむことに着眼し、「きになるかたち」というサブタイトルをあげ、どうも気なるかたちたち約30点を選びました。

今回は、まるいかたち・しかくいかたちなど、かたちがそのまま理解でき、鑑賞して楽しめる作品や、くもやひかりのように、決まったかたちがあるものではないけれど、作者の眼やこころで昇華して作品に表現されている作品、そして、これはいったい何を表現してあるのか、ゆっくり鑑賞しないとわからないふしぎなかたちの作品と、作品を4つのグループに分けて配置し、素敵だったり、おもしろかったり、何だか解らないけれど、どうもきになるというかたちたちを、昨年同様、お子さんの視点・観点に合わせて作成した鑑賞用のセルフガイドを見ながら、親子で考え、会話を楽しみながら鑑賞できるようになっております。

今年もぜひ夏休みのひとときを美術館でお過ごしください。

まるい・しかくい

坂に建つ街　山本知克

かくばった家たち
さんかく・しかくの
かたちたちが
とてもおもしろく
ならんでいます

夏は親子で美術館！

まるい・しかくい

落下　久世建二

しかくいかたまりが
どすんどすん
おちてかさなって
ちがうかたち
おもしろいかたちに
へんしん！
かたさも
やわらかさも
感じるね

ふしぎ

黎明に　田賀亮三

いろんなかたちが
たくさんとびかって
いる絵
作者の庭を
描いたもの
ふしぎ
南方の植物が
植えてある庭なんだ
そっか
見かたを変えると
こんな感じ
おもしろいかたちで
いっぱい

今月のコレクション展示室

主な展示作品

7月22日(金)～8月21日(日)

◉＝国宝　◎＝重要文化財
□＝石川県指定文化財

昏　上田珪草

前田育徳会展示室

特集　婚礼調度の美

葵紋蒔絵婚礼調度　溶姫所用
業平菱牡丹紋蒔絵碁笥・碁石
業平菱牡丹紋蒔絵将棋盤・棋箱・駒
長柄銚子
蒔絵広蓋
姫君入輿行列図

第1展示室

◉色絵雉香炉　野々村仁清
◎色絵雌雉香炉　野々村仁清

第2展示室

特集　古九谷・再興九谷名品展（後期）

青手老松図平鉢　古九谷
□色絵鶴かるた文平鉢　古九谷
□色絵鶉草花図平鉢　古九谷
□青手桜花散文平鉢　古九谷
色絵唐人物図鉢　春日山窯
色絵唐獅子牡丹図平鉢　若杉窯
色絵万年青図平鉢　吉田屋窯
色絵楼閣山水図蓋物　小野窯
色絵桐鳳凰草花文高卓　粟生屋源右衛門
色絵金彩花鳥文大香炉　九谷庄三

第3・4展示室（日本画・油彩画・素描・版画・彫塑）

日本画

山の池　石川　義
昏　上田珪草
船と人　坂根克介
初夏の花　濱田　観
寂寞　原田太乙

油彩画

樹間の家　岡田三郎助
戸隠山　清水錬徳
画室にて　高光一也
シャルトルの寺　竹沢　基
かもめのくる港　藤本東一良

素描・版画

バリ島の踊り　南　政善
プッペ　田村孝之介

彫塑

ニーナ　石田康夫
女（ポニーテール）　畝村直久
縛　坂　坦道

第5展示室（工芸）

陶磁

構成の美花器　二代浅蔵五十吉

漆工

平文千鳥盛器　大場松魚

染織

友禅白地総菊文振袖「美の饗宴」　羽田登喜男

金工

砂張稜線磨地水指　三代魚住為楽

截金

截金彩色合子「千鳥」　西出大三

第6展示室（日本画・油彩画・彫刻・書・工芸）

特集　夏休み　親子で楽しむ美術館

日本画

雪雲来る　曲子明良

油彩画

地層　森本仁平

彫刻

正三角形の内と外　末政哲夫

書

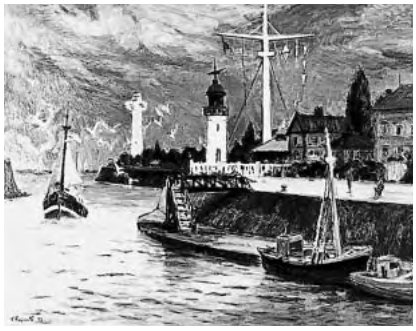
未だ定まらず　表　立雲

工芸

トンネル　関　源司

◆観覧料

個人	一般	350円
	大学生	280円
	高校生以下は	無料
団体（20名以上）	一般	280円
	大学生	220円
	高校生以下は	無料



かもめのくる港　藤本東一良

女（ポニーテール）　畝村直久

平文千鳥盛器　大場松魚

講演会記録

石川県立美術館コレクション こぼれ話

講師：嶋崎　丞（当館館長）

現在、美術館の収蔵品は2,860点でその約69%が、ご寄附でいただいたものです。寄附をいただいてこの美術館の収蔵品が出来上がっていると申し上げても間違いないと思っています。今、企画展示室で近年私共にいただいた寄附作品を中心に「石川県立美術館の精華」として公開し、改めて敬意を申し上げご披露申し上げる機会に繋げたいと考えております。今日は今までいただいた作品のスライドを映して、裏話を含めたまさにこぼれ話をいたします。

収蔵品のトップは何といっても野々村仁清作の国宝「色絵雉香炉」で、ご寄附いただいたのは山川庄太郎さんでございます。旧美術館がオープンしたのが昭和34年10月12日でその1年前にご寄附いただきました。昭和33年に昭和天皇が石川県をご視察になる時に、山川家の雉を見せたらどうだろうかということと、オープンする美術館を象徴する代表作品が必要だろうということでお願いし、一般にはなかなか見せなかった雉香炉が石川県の所蔵品になりました。山川コレクションの中でもこれは別格で、後はみな侘び茶人の侘び道具です。昭和36年に山川美術財団をこしらえて130点を美術館に寄託され、昭和58年、現在の美術館のオープンのときにそれらの寄託品は一括寄附になりました。

（「青木外吉像」「山羊を飼う老人」等　吉田三郎作）　昭和51年、ご子息の渉さんから一括寄附のお申し出がありました。しかし旧館時代の美術館は彫刻作品が展示できる構造になっておりませんので、正直どう活用していくかが大きな課題でしたが、その数年後に現在の美術館を建てようという話が展開し、美術館の彫刻コレクションの中心的な役割を占めることとなり、吉田さんの代表作が肖像彫刻を含めて殆どここに収まることになりました。

（「フードの女Ⅰ」等　高光一也筆）　高光さんは、今から25年前この美術館の建設準備委員長もやっていただいた方であります。旧館時代は純粋美術についてのコレクションがありませんでした。高光さんの動向が作家の方々が寄附される決め手になると思っていたのです。なかなか寄附するといわれなかったのですが、開館の年の昭和58年の春、100点を寄附していただくこととなり感激しました。

（「菖蒲図皿」中村研一筆）昭和49年、油絵のタッチで描いた九谷の絵付の絵皿を13点一括、夫人からご寄附いただきました。九谷の新しい一つの絵付けの方向性を見せるモデルの工芸作品であると思っております。また中村研一さんは高光さんの師匠でもあり、油絵も代表作を10点寄附いただきました。

（「馬ならぶ」「印度の女」南政善筆）南さんは志賀町のご出身で、高光先生と殆ど同年代です。出世作の「馬ならぶ」を含め30点ばかり、高光さんより先に寄附していただきました。

（「丘上の女たち」清水錬徳筆）独立展で賞をとった作品ですが、絵の内容から特高からやかましくいわれて納屋のバックとして40年近く埋もれていた作品です。時代を表している思い出深い作品です。

（「歌手」「阿修羅」宮本三郎筆）宮本三郎のそれなりの年代的な代表作が入っております。何点かは購入したのですが、寄附もして欲しいと申し入れたのです。気難しいといわれた夫人から5点ほど寄附になったということで話題になりましたが、ここに高光さん、南さん、宮本さんの代表作が収まりました。

（「1982年　私」鴨居玲筆）宮本三郎の一番弟子の鴨居さんを入れなきゃいかんということから、展覧会準備中の日動画廊で200号の大作を事前に拝見し収蔵することを決めました。

（県文「青手桜花散文平鉢」古九谷）昭和34年にオープンするときに古九谷で美術館の特色をもちたく思い、古美術商に声をかけておりました。この作品はお祭りでお寿司を盛るなど、普段使いされていた隠れた作品でした。加賀市の九谷焼美術館開館時に出品し、ＮＨＫの新日曜美術館で放送しましたらたいへんな評判になり、その後、県の文化財になりました。

（県文「色絵鳳凰図平鉢」古九谷）世界的に知られる名品なので、購入のライバルの美術館は1億円の値段を付けましたが、所有者に直接お願いをして、7千万円以下の評価となり、議会の承認なしで買えた、いわく付の作品です。

（「萩に兎図」俵屋宗雪筆）全国で3点しかない宗雪の印を捺した襖でした。宗達と加賀琳派を繋ぐ作品で貴重な作品でしたがこれもご寄附いただきました。そして屏風に仕立て直した作品です。

（「姫小松造水指」川北良造作）兼六園の枯れた姫小松を人間国宝の川北良造さんにお世話したおかげでご寄附いただきました。

（重文「色絵雌雉香炉」野々村仁清作）平成3年にご寄附いただきました。この作品は旧館開館の時と十周年の時も借りており、雄の居る金沢にとご寄附いただけました。雌雄の動物学的見地から話題になりました。

（「蓬莱之棚」松田権六作）明治以降の漆作品で重要文化財の第1号になるならこの作品です。所有者と交渉して1億5千万から1億になった作品です。7千万を超えると議会の承認が必要になりましたが、全会一致で購入の決定を頂き、ほっとしました。

（「石川県立美術館の精華」にちなんで、5月3日に当館ホールで行なわれた講演内容を要約したものです。講演では作品のスライドを交えた話の主だったものを記しました。）

企画展TOPIC

サントリー美術館名品展 －日本美術の精華－　第1回

重要美術品　秋草蒔絵鏡台

サントリー美術館は、「私たちの祖先が生んだ、すぐれた伝統美術をもっと身近に鑑賞し、親しんでいただける場所を提供したい。」という佐治敬三サントリー株式会社社長（当時）の発意により、昭和36年（1961）に創設されました。以来「生活の中の美」という基本テーマのもと、日本古来の美術・工芸品を中心に作品収集や企画展示が行なわれてきました。都心にある美術館として、都会の喧噪を忘れさせ、心のゆとりを取り戻すことができる魅力的な美術館として人気があります。

所蔵品は、絵画、陶磁、漆工、染織、ガラスなど幅広いジャンルに渡り、今日では国宝1点、重要文化財12点を含む約3,000点にも及ぶ国内有数のコレクションとして国内外に広く知られています。近年は、現代の造形作家を対象とするサントリー美術館大賞を創設、またエミール・ガレの作品群を収蔵するなど、西洋や現代にまで枠を広げ、新たな方向性を求めようと、積極的に新しい時代に向けた美術館運営に取り組んでいます。

本展は2007年の春、六本木でのリニューアルオープンを控えた同館の特別なご協力を得て、また、美術館相互の交流展として、開催するものです。作品は平安時代から江戸時代にかけての絵画、陶磁、漆工、染織、ガラスの各分野から、国宝や重要文化財を含む約130点を選りすぐり、一堂に展示します。当時の人々の生活や美しきものに寄せた心情など、日本人の感性を感じとることができることと思いますので、ご期待下さい。主要な作品については次回に紹介いたします。

（高嶋清栄　学芸専門員）

※「サントリー美術館名品展－日本美術の精華－」の会期は、9月23日（金・祝）～10月23日（日）です。

重要文化財　四季花鳥図屏風　伝土佐広周筆（右隻）

企画展示室

第15回記念北國水墨画展

8月27日（土）～31日（水）（第7～9展示室）

石川県内の水墨画愛好団体を網羅した統一展です。近年、愛好者の増加と作品の向上が著しい県水墨画界の結束を図るとともに、愛好者拡大を目指すねらいの展覧会で、作品は広く愛好者から公募して審査し、入選、入賞作に加えて委嘱作品も併せて展示し、水墨画の魅力を伝えるものです。

◇**入場料**　一般・大・高生　500円（400円）
中学生以下無料　（　）内は団体料金
※当館友の会会員は、会員証提示により団体料金

◇**連絡先**　金沢市香林坊2－5－1
北國新聞社事業局　北國水墨画展事務局
☎ 076－260－358

8月の行事案内　《入場無料(ギャラリートークを除く)・いずれも午後1時30分から行います》

月　日	行　事	内　　容	会　場
8/6(土)	美術講座	人間国宝　木村雨山のしごと　（寺川和子　学芸主任）	講義室
8/7(日)	月例映画会	ターナー　狂気を誘う風景画家　誰も私を好きになる権利はない（23分） 呉須三昧　近藤悠三の世界（32分）	ホール
8/14(日)	ビデオ鑑賞会	正倉院宝物3　国宝珍宝帳（30分） 正倉院宝物4　遥かな源流　古代ペルシャの美術（30分）	ホール
8/20(土)	美術講座	手鑑の世界　（高嶋清栄　学芸専門員）	講義室
	コンサート	トワイライトコンサート（いしかわミュージックアカデミー ミニコンサート）午後6時～	1階ロビー
8/21(日)	月例映画会	フェルメール　死を呼ぶ陶酔の空間　大衆状況下に消えた画家（23分） 小鹿田焼（34分）	ホール
8/27(土)	ギャラリートーク	吉田冨士夫　手品師の息づかい　（二木伸一郎　学芸専門員） ※展示室内で行われるため、コレクション展の入場料が必要です。	コレクション展示室
8/28(日)	ビデオ鑑賞会	正倉院宝物4　遥かな源流　古代ペルシャの美術（30分） 正倉院宝物5　大唐の美術（30分）	ホール

※8月の全館休館日は22日(火)～24日(木)です。

呉竹漆盛器

小松芳光　明治36年(1903)～平成5年(1993)

昭和53年
第10回改組日展
幅48.6　奥行48.8　高6.9(cm)

呉竹とは中国の呉から渡来したといわれる淡竹のことで、四角形の大振りな盛器には、その呉竹が風にそよいでいるかのような、しなやかな様子を表現しているかのように見えます。竹の重なり合う葉は一枚一枚丹念に写実的に描かれていますが、背景に蒔いてある青貝が、深く静かな漆黒の中に煌めく星を表すように、また風が葉を揺らしたときの残像を表すようにきらきらと輝き、呉竹の凛とした表現とはまた違い、神秘的で、見る者を幻想の世界に誘うように感じられる美しい作品です。

小松芳光氏は明治36年金沢市に生まれました。金沢市工芸研究会（現：金沢市工芸会）研修生制度の第一回派遣生として、大正13年東京美術学校聴講生となります。研修期間終了後もそのまま東京に残り、植松包美氏に師事します。帰郷後、昭和2年、第四部美術工芸部が正式に決定した第8回帝展に「蒔絵手箱・花圃」で初出品、初入選を果たします。13年には第2回新文展で特選を受賞。戦後は日展で意欲的に活躍し、21年には特選、43年には「さぼてん」で文部大臣賞を受賞されます。52年加賀蒔絵で石川県指定無形文化財保持者、55年に日展参与に。氏のモダンなデザイン感覚と加飾による独創的な意匠は、漆芸会に新風を吹き込みました。また、金沢美大では昭和45年に退官されるまでの二十余年の間、学生の指導に当たられました。

※第5展示室で8月25日～9月19日まで展示

第35回文化財現地見学のお知らせ

今年度の文化財現地見学は、現在下記の予定で準備を進めています。見学コースや日程等の詳細は、来月号に掲載しますので、しばらくお待ちください。

日　　程　10月8日(土)～9日(日)
1泊2日
見 学 先　福井県（敦賀市・小浜市）
見 学 地　西福寺（敦賀市）
明通寺（小浜市）
神宮寺（小浜市）他
募集定員　45名（対象は原則として成人）
申し込み・抽選会
往復葉書にて申し込み。抽選会を公開で行います。申込期日や抽選会日時は来月号に掲載します。

次回のコレクション展

特別陳列
吉田冨士夫 －手品師の息づかい－（第３展示室）
特　　集
尊經閣文庫名品展　（前田育徳会展示室）
歌 と 書 の 世 界　（第２展示室）
8月25日(木)～9月19日(月・祝)

８月毎週土曜日は、午後８時まで開館します。

休館日：8月22日(月)～24日(水)

石川県立美術館だより　第262号
2005年8月1日発行
〒920-0963　金沢市出羽町2番1号
TEL 076(231)7580　FAX 076(224)9550
URL http://www.ishibi.pref.ishikawa.jp/